

リアル
三十路、独り身、乳ガン闘病記



片野あかり・著

第1章 三十路、カンチガイしたまま爆走

- ・ 目先の欲にとらわれて会社から脱走！ 14
- ・ 節約なんて、いたしませんの 16
- ・ 「体を大切に」なんて、遠吠えだ 19
- ・ 丈夫だけが取り柄です 20
- ・ とにかく血の気が多くって 22
- ・ 過食なのにダイエット 23

第2章 独立祭りが終わりました

- ・ あれ？これって無職ってやつ？ 26
- ・ ツケが回ってきたぜ、支払い地獄 28
- ・ 1000円をめぐって大ゲンカ 29
- ・ 仕事ナシ、出会いナシ。これでいいのだ？ 35
- ・ やってくる、下り坂の予感 37

第3章 ニューガン、何それ？

- ・ 電話一本、ユル〜イ告知 42
- ・ 大学病院デビュー 44
- ・ どうやって発見したって……セクハラ？ 47
- ・ 「病弱」は確かにあこがれていたけど 49
- ・ 乳ガンになりやすい「30過ぎ、独身」 50
- ・ いきなりドラマチック？ 周囲の反応にドン引き 52
- ・ イキナリ大金！ 保険の額にとまどう 54

第4章 ドトウの戦闘開始

- ・ can't stop 嘔吐！ゲキテキな副作用 60
- ・ よくわからない食欲 64
- ・ イノチがけ!? 検査からの生還 66
- ・ 病気文学に異議アリ！ 72

第5章 いったいどうなる？ 人生初の入院＆手術

- ・ガーデニング缺で髪を切る 73
- ・医療用ウィッグにげんなり 76
- ・どうする、カミングアウト問題 78
- ・け、毛がアアア!! 82
- ・キレイゴトだらけの病氣ブログにウンザリだぜ 85
- ・患者サロンでセクハラに 88
- ・だって、ガンなんだから 90
- ・待合室の人間模様 93
- ・カツラかぶって合コンへ 96
- ・顔が丸い、肌が荒れる！ 99
- ・ガン友との出会い 102
- ・手術前、検査のスタンブラリー 106
- ・不覚にもワクワクしてしまう入院 108
- ・続きは手術後で！ 110
- ・病院での誕生日 112
- ・乳首との再会 114

第6章 えっ!? これで終わりじゃないの？

- ・ゼロ円入院ルームは、愉快的な刑務所 118
- ・不良息子との対面 122
- ・浮腫が怖い！ 127
- ・ねたみ、そねみ大爆走！ 130
- ・イラッとするぜ！ 134
- ・未来がいきなり見えなくなつて 137
- ・迷惑をかけても生きたい 140

第7章 予防対策狂時代。生きるためなら何だって！

- ・可能性のためなら、何だって 144
- ・やるぜ！ 食事療法 146
- ・ひとつ頼むぜスピリチュアル！ 150
- ・放射線治療 154

第8章

メデタシ、メデタシではない私の日常

- ・高額医療に溺れる
- ・健康法あれこれ
- ・あれ？私ってもしかしてカモ？
- ・時々怖い、民間療法
- ・あれから1年
- ・ビミョーな地毛デビュー
- ・健常者にはなれなくて
- ・病気を楽しむ
- ・まだ、ありがとうは言えないけど
- ・私の旅は、まだ続く

おわりに

184

181

180

178

175

173

170

166

164

160

156

2008年8月、30歳の私は突然乳ガンを宣告された。

もしかしたら、まあまあよくある話なのかもしれない。

なにせ、3人に1人がガンになるこのご時勢だ。

でも、自分のコトとなると「え！ マジで!？」なんてもんじゃない。

なんとかして会社を辞めて、フリーのコピーライターになって「イッエイ、人生これからだぜー!」って矢先に、いきなりコレだ。

まさか、自分がガンになるなんて！

どこかで、テレビとか小説の中のものなんじゃないの？ なんて思ってた。

30歳、という若さのせいかもしれないけど。

ドラマとか、ドキュメンタリーではとってもケナゲで立派な患者さんばかり。

それが、自分とイメージが違いすぎるってのもある。

なにせ、この私、「こいつから丈夫を取ったら何が残るんだ?」ってヤツなのだから。

だからなのか、どうもイマイチ、ドラマチックになれない。

カレシとかいたら、ちよつとは盛り上がったのかもしれないけどさ……。

この本は、そんなごくごく普通の、というよりちょっとザンネンなアラサーが、実際に乳ガンになった、という脚色ゼロのリアルな闘病記です。「闘病記」というと感動モノや泣けるモノばかりだけど、実際は「そんなじゃないね」とイチ患者として思う、キレイゴトじゃない部分をめいっぱい盛っちゃいました。

ちなみに、先に言っておくと2010年8月の今、著者は何事もなく生きてます。

だから最後まで読んでも、今ガンと戦っている人が「縁起でもねえよ!」って怖くなるようなことは書いてないのでご安心を。

私の場合、どうもヒトの闘病モノを読むと、自分にもそれに近い怖い未来が待ってるんじゃないか……って最後まで読めなかったりしたのだけど。

ま、そのかわり、「親子の愛!」「生命の奇跡!」「生きることの素晴らしさ!」みたいな大袈裟な感動も期待できないけどね。

この本は、今ガンとか病氣と闘っている人にぜひ見てもらえたら嬉しい。

え!? なんでワタシが!? と戸惑ったり、ネガティブなことを思ったり、周囲が



突然妬ましくなったり、そんな自分がイヤになったり。
そんなことを思ってしまうのはしょーがない。でも、ガンじゃなかったら味わえなかった面白いことやイイコトも、ちよつとはあった。
ただ、一緒に泣いて笑って、リアル闘病ライフに立ち向かう1冊になればたら、なんて思う。

あと、家族や友人にガンが発覚して、どう接していいかわからない、とお悩みの方のヒントになればいいかなと。

やっぱり、急に周囲の人がガンになったら、どうすればいいか悩んでしまうもの。ホント、つくづく自分でよかったぜ、と思っちゃうほどだ。

まあ、私のイチ個人の体験なので、参考になるかどうかはさておきとして……。

ガン患者、といっても、ただ普通の女子がガン、という病気になっただけ。

そんなアラサーガン患者が、治療しながらもカツラをかぶって合コンに行ったり、病気を通じて友達をつくったりヤサグレたりと、30歳女子のリアルライフがある。でも、やっぱり病気が怖くなって大騒ぎしてわめいたり、予後対策に明け暮れて、民間療法に没頭してしまったり。

そんなバタバタな日々を、カルしく読んで笑ってくれたら、それこそ生きてきた

甲斐があるぜ、ちくしょう、ってもんです。

見苦しい点もあるかと（というよりそればかり？）かと思いますが、どうぞ最後までお付き合いくださいませ！

2010年 8月 片野あかり



A large red ribbon graphic, a symbol for HIV/AIDS awareness, is centered on the left side of the page. It is composed of two overlapping loops, one in a darker red and one in a lighter red. The text is placed within and over the ribbon.

第 1 章

三十路、
カンチガイしたまま
爆走

目先の欲にとらわれて会社から脱走

30歳になったばかりの3月、私は笑いをこらえるのに必死だった。

だって、明日から会社に行かなくていいんだもの！

「自由参加」とか言うワリに、参加しないとヤル気ないと判断される会議とか。

イヤイヤ参加の、強制イベントとか。

そもそも、そんなバイオレンスから逃げ出すために策を練りつくし構想半年。

さながら脱獄のように、用意周到に。

周囲を巻き込み、時には被害者のような顔をしたり頭脳戦。

完全犯罪の成立までアト1歩の犯罪者もこんな気分だったに違いない。

ニやり。

「みなさまのおかげで、ずっと夢だった独立をすることができました」

「まだまだ未熟なワタクシですが……」

こくくんな最もらしいことを言いながらも、心の中では

「クックック、予定どおり」

と『デスノート』の主人公のようにほくそえんでいた。花束と寄せ書きで顔を隠しながら。

そう、私はフリーのフリーライターになったのだ。

それも、ただ会社に行きたくないという理由だけだ！

それだけ！

昼に起きて、誰も文句はいわない。

仕事を早く終わらせたなら夕方から酒をかつくってもいい。

もう、月末の売り上げ表を見て、「これが自分の給料だったらなあ」なんて死んだ魚のような目をしなくたっていい。全部自分のモノだ。

前から仕事で付き合いがあった人には、「お仕事くださいよ。あなただけが頼りです」なんてひとりひとりに言っただけ「応援してるよ」と温かいお言葉をもらいまわっていた。そんなこんなで推定売り上げは、さながら毎月ボーナス月。ヒヤッヒヤッヒヤッ。あゝ、毎日会社に行くなんて、なんてバカバカしい。

その頃の私は、これから先の人生がバラ色だと思っていた……。

節約なんて、いたしませんの

今まで、自分で「ヤバイよ」とか「買い物依存症だよ」とか自分で言う人は沢山見てきたけど、うちの母に勝てる財布のヒモユルユル女は見ることがない。

ヒモがユルイというよりサイフにそもそもヒモがついてないようなものかもしれない。いつも開きっぱなし。

フツー、母親ってのは、貯金しろだとか、堅実に働けとか言うよなあ。でも、うちの母の座右の銘は

「お金はゼロ円になってから考える」だ。

子育て中で、ちゃんと食わせられるかお金が心配な時期に、訪問販売で30万の鍋を買ったくらいだからシャレにならない。

「お孫さんの代まで使えますから」

とか言われて買ったのに、孫、生まれる前に台所がオール電化になって使わなくなってますから！ しかも、その話をするたびに

「違つよ！ 30万じゃない。1日100円だよ！」

とか今でも騙されてんのに気付かないから、娘の私だつて

「おいおい大丈夫なのかよ」と心配してしまつ。

そんな母に育てられた私も、やっぱり金銭感覚がマトモなはずがない。

そつ、独立して最初の入金は、なんと会社時代のボーナスと同額だった！

うつつじゃあああ！

これが毎月なんて、こりゃ使い切れないね、どうしましょ？ なんて。

嬉しくて、ひとまずビールをあびるように飲んでみた。

やっほい！

それも、真ッ昼間から。

飲んでも飲んでも、まだ夕方。会社時代だったら、これから会議って時間。

これからは何でも買える、時間もたつぷりあると実感した（思い上がった）気分のまま、今までは入ったこともないグッチの店に。

あらあら、お高くとまってンけど、ワリに良心的な価格じゃない？ なんて。

酔っ払って、気が大きくなったというのもあるけど、30年間生きていて、初めての6ケタのお買い物だ。それを

「ね、お願いできますか。」

なくんて、ボンツと買っちゃった!!

……いままでは、2万円以上のバッグなんて買ったことないのに。

グッチ様に見合うようなお召し物なんて、一着も持っていないってのに!

ホント、ビンボー人が、ちよつとしたラッキーで小金をつかむとロクなことに使わないよな。宝くじで高額当選者が悲劇を起こすのもわからんでもない。

そして、電車がまだまだ走っている時間だったのに、タクシーで家に帰った。

翌朝、目が覚めたら金色に輝くグッチの紙袋があった。

「えらいことになっちゃったなあ」なんてつぶやきながら、ニヤニヤしてしまった。

が、しかし、後日談。母にバッグを自慢したら、

「あたしもグッチのバッグ持ってるよ、使ってないけど」

とか言いやがった。

やはり、ムダ使いにも上には上がいる。それも認めたくないが、実の母だ。

しかし、ただ情性で買い物をしまくる母と、虚栄心を満たすために購入する娘に買われちゃうグッチがなんとも気の毒である。

「体を大切に」なんて、遠吠えだ

フリーのコピーライターと言っても、無名なのでそんなに儲かるもんでもない。

それでもなぜ会社時代以上の収入をゲットできたかという……。

そう、理由もナニもない! ただひたすら寝ずに働きつづけただけなのだ。

もっと言うと、戦略も何もない、体力バカ。

どうだ! すごいだろう。

ただのビギナーズラックなんだが、仕事は前の会社の友人たちが、どんどん持ってきてくれた。それをただもう食欲に引き受けつづけた。

いつも寝不足でカラダはボロボロ。ついでに、肌もボロボロ。

年上の人には、そりゃもう説教された、された。

「お仕事とか、お金よりも大切なものってのが人生にはあるんだよ」だとか、

「俺も若い頃はそうだったけど、今はもっと大切なものがある」とか、

「健康が、何よりも大切。あんた、しきに命にかかわることになるよ!」とか。

そ〜ですなえ、とかとりあえず言っただけ、**うつせえよ!**ってのが本心。

朝起きたらグッチのバッグがあったとか、財布に5万円が入っている時のニンマリ感を知ってしまった今となっては、負け犬の遠吠えにしか聞こえねえ。

あなたの人生、こんなにバブリーなことってありませんか?



いきなり年収が2倍になるなんて、経験したことある？
あったら、「お金なんかより大切なもの」なんて、カンタンには言えないでしょ。
手に入らないって、あきらめちまったから「それは大切じゃない」なんていつてるんじゃないの？

後悔ワルイ！

将来、後悔することがあっても、「お金より大切なものがある」なんて言うことがあっても、それは一通りやり遂げた後じゃないと、
若いうちってのは、働けるうちは働いてナンボだろ!?

ま、後悔する日は意外と早く来たんだけど……。

丈夫だけが取り柄です

就職活動も、仕事でも、決めセリフが「丈夫だけが取り柄です」だった。

バカは風邪ひかないとは言うけれど、風邪ひくほうがバカだよなあ？ 危険意識だとか自己管理だとか考えても。

最初に就職した広告代理店はメチャクチャ労働環境が悪かった。

日本史の授業でみたような（ナントカ製糸工場とか、四日市とか）労働の現場みたいなも

んだった。

徹夜は当たり前、休みは月に1日になることもザラ。

「これじゃ身が持たんわ」といつて辞める賢いヤツは、まずそんな会社に入ることはほとんどない。たまにいたかもしれないが、残ったメンバーは基本、Mッ気の多い残念な奴ばかり。特に私。

徹夜が必要となるたびに、自分が必要とされている気がして喜んで徹夜ばかりしていた。カワイイとかキレイとか、オンナとして褒められるより「**仕事ができる**」が最高の褒め言葉だった。まったく……、そんなだけ働くヒマがあったらオンナをみがけてんだ。

でも、このドM集団にも体力に限界があつて、ひとり、またひとりと倒れてどんどん会社を辞めていった。

そんな中、私だけがいつも元気だった。

ワタシのカラダは特別！

とにかくカラダに無理させればいい。
そう信じて疑わなかった。

とにかく血の気が多くって

20代の頃は、いつもケンカをしていたような気がする。最初に就職した代理店が、とにかくケンカっ早いヤツらばかりで、いつも会社で誰かと誰かがケンカしてるのが当たり前だったせいもある。

上司A「ちょっと、誰が**オバちゃん**だったのよ!」

上司B「あんたしかないでしょ!」

パートさん「ちょっとお二人とも、ケンカはやめなさいよ」

上司A・B「うっせえ! **ババア**はだまってな!」

パートさん「まあ! 誰がババアですって!」

こんな会話が、お芝居ではなく実際に毎日繰り広げられてるくらいだからホント、やんなってしまふ。

就職っていうより、ヤンキー高校に入学したようなもんだ。

とにかく私もくだらんことでしょっちゅうケンカしてた。

「ちょっとアンタ、机くらい片付けなさいよ」と言ってきたパートのおばちゃんにまで「誰がアンタの給料稼いでると思ってんだい!」とケンカを売る始末。

今思えば、それがビジネス会話だと思っていたのかもしれない。

おかげで、次の会社に行っても独立してからも、まあケンカばかり。

自分が悪かろうと、相手は上司だろうと、とりあえずかみつく。

負けを認めたら負けてモンよ!

ホント、20代の頃は心が休まった日がなかったな……。

過食なのにダイエット

カラダにいいコトなんて、年寄りくさい!

そもそも元気なうちは好きなものを食べる、がポリシー。いや、ポリシーってほどのものではないか。

時間もナイし、自炊なんてとんでもないざんす。

朝ごはんだって、しっかりお腹すくもんだから、基本は外食。パンだけじゃ足りない。何を隠そう、かなりの大食いなのだ。

がつつり定食屋さんで食べた後、クライアントとランチ、なんてこともしょっちゅう。グルメ取材の日には、1日に6件の店で食事をとることも。

でも、ひとつ言っておくけど……、

ヤセの大食いなんかじゃねえ！

食えば食うだけ太るんだYO! DAYONE!

だから、Mサイズを死守するためには手段を選ばなかった。

「ただ飲むだけで5キロ減！」とかいう明らかにアヤシイサプリにも手をだした。

ホントにただ飲むだけで5キロも減ったら毒だつての。

実際に試したら、油断して食べるからかえって太ったし!!

ただ飲むだけで太るサプリ……げにおそろし。

夕飯は、食事代わりのシェイクやクッキーを試した。

……でも、その後にビールを飲んだら意味ないし。

暴食のくせに、趣味はダイエット。

食生活を改めろってハナシだよ、まったく。

とまあ、そんな感じでカナリ順調に独立のスタートをきれた。

生活はメチャクチャ、体もボロボロながらも、このままうまくいくと信じていた……。

第2章

独立祭りが
終わりました

あれ？これって無職ってやつ？

フリーになって3ヶ月が経った。

6月〇日（火）

今日はオフ♪ オフって響き、カッコいいぞ。お買い物にでも行こうかな♪

6月〇日（水）

今日もオフ♪ さて、今日は何しよう？

6月〇日（木）

今日もオフ……。

って、いつまでオフなんだああああ!!

今までずっと次々とあつた仕事、パタッと急になくなった。

会社勤めの7年間、寝る時間もないくらい仕事に追われていたため、仕事がなくなるなんて想像できなかった。

終わりのないオフ、つまり仕事の予定がないということがどういふことなのか、危険意識ゼロの私にも分かる。そう……

仕事がないフリーは無職なあああ!

そういえば、「独立資金をためたんでしょ? すげー!!!」とか友達に言われた気がする。

「まあね」なんてテキトーに答えたけど、独立資金?なんだそれ?

自慢じゃないが、独立資金、多分5万くらいだぜ!?

コピーライターなんて、物を仕入れたり誰かに支払ったりすることはまずないんだから、そんなものなんていいと真剣に思ってたよ。

あゝさては、会社のヤツらはみんな知ってたんだな。

サボっても、仕事中にm i x iをイジってパソコンに向かっているフリーでも、誰もワザワザ病院になんか行かない「病院立ち寄り」とかでも給料が発生するってこと。

「金持時めたい〜」とか「いいな〜独立」とか言ってたくせに私が目先のお金にとらわれて独立言っていた時、あいつら「バカだなあ」とか思ってたに違いない。

キ〜! くやしければ。

でも、前の会社には意地でも戻りたくない! 戻ってたまるか。せつかく手に入れた自由を何としても守らねば。今から毎朝7時に起きるなんて、ぜ〜ったい無理!

キャバクラのバイト募集アイッシュをもらっては、「お、まだイケルか!」と思ったけど、資格…18〜28歳。う〜ん「イザとなったら夜のおシゴト」も無理なのか!!

世知辛いったらありやしない。若者よ、独立するならガゼン28歳までをおすすめしたい。

「閉店しました」という張り紙のある個人経営のお店を見つけては「なあ、あんたこれからどうするんだい？」と片っ端から聞きまくりたくてしょうがない気分になった。ま、誰も私のように無計画ではないと思っただけだ。

ツケが回ってきたぜ、支払い地獄

仕事の予定がなかつと、収入がなかつと、買ったものは支払わなければいけない。

ああ、これからどうしよう……と途方にくれていた時、追いつきをかけるように届いたカードの請求書。

「フリーのコピーライターっぽい格好しなきゃ」とか言って服を買いきつたりしたが、今となっては服なんてどうでもいいだろ！ っていう心境だ。

が、しかし。それだけならまだいい。痛い思いをするのは1回だけなんだから。

そつ、一番タチが悪いのは……家賃だ！

仕事仲間のデザイナーと、「**やっぱりオンとオフは分けたいよね**」なんて言ってカッコつけて借りた事務所代、1人あたり3万！ そこだけ聞くと、大して高い気もするけど、健やかなきも病めるときも払つとなるとハンパなく気分が重い。

しかも、「独立しました」とか言ってその住所での名刺を100枚くらい配っちゃったああ！
今から**「すまん！ 住所間違えた！」**と回収するわけにはいかんのだ。自分の住所を間違っているようなヤツに自社のチラシなどの制作を任せられるはずがない。さらにさらに……

事務所の徒歩圏内に引越しまで！！

しかもカッコイイという理由だけで自由が丘！ 電車に乗らなくていいというだけの理由（言い訳）で、会社時代の家賃より1万円アップの9万円。

うーん、これから先、光熱費とか水道代、食費だけでなく、ただ何もなくても事務所代と家賃の12万が毎月たらたらと垂れ流すように出て行くのか……。

やれ住所だとか、家だとか服だとか。カッコつける前に結果出させてんだ！

10000円をめぐって大ゲンカ

仕事は無いが、時間だけはたっぷりある。

ならばここはひとつ、本でも読もうじゃないか。

フリーのためのヒントもあるかも、くらいの軽い気持ちで本屋の棚を見たら……。

『会社を辞めても食べていく』



『生き残っていくフリーランス』

などというようなタイトルの本が、あるわあるわ。

そっか、そっなのか……！

フリーで食べていくって大変なコトなのね！
(今更さッ!?)

そのノウハウが本になって売られるくらいなんだもの。

そっだよなあ。そう簡単にフリーで生活できたら、みんなあんな面倒な会社員なんてやんないよな。ちよつと考えればわかることだよなあ。

ひとまず、そんなノウハウ本を買ってみた。まったく、社員時代からこつという基礎知識は持っておくべきだった、ほんと、今さらだよ。

その本によると、

「フリーランスとして生き残るためには、仕事の出費だけでなく、生活費など、とにかくお金の管理が大切！」

だとか。なるほど、カケイボか。そっか、あれか。

家計簿というと、禁句とか地雷とか、そんな言葉がよさる。

そつ、実家に住んでいた頃、家計簿をめぐってよく両親がケンカしているのを目の当たりにしてきたからだ。

「お父さんが、家計簿なんかつけろというのよー」と時々、母は娘に泣きついてきた。

「アンタの金銭感覚じゃそつも言いたくなるよー」とツツコミたくもなったが、つけたらつけたでケンカになることも目に見えている。

「なんだ！ このカーテン代10万って！」 とか。

そんな家庭環境のため、家計簿というものは家庭崩壊にもなりかねない、危険物なんだと子ども心にもつすず感じていた。

でも、これから先フリーでやっていくためにも、自分の生活費を知る必要はあると思ってノートにつけてみた。

でも……

1日の食費が25000円!?

つてコトはだよ、1ヶ月で750000円?!

さらにそこに酒が入ったら900000円???

それに家賃やら光熱費が入れば25万!?

思わず貧血を起しそつになっちゃった……。

これは、やばい。

まずは食費の切り詰めだ！

日本人なら水道水！ ミネラルウォーターなんてじゃれ込んでる場合か!?

全部ノートにつけはじめると、細かい出費を書くのがしんどくなり節約するようになった。食

べたものを全部書くと、食べる量が減って自然にヤセるという大ヒットしたダイエットと同じ理屈かもしれない。

そつこうしているうちに、節約ハイになった。

食べる量を減らせば食費は1日500円くらい！ やった！

実家に帰った時は、米をもらって帰った。かばんが重かった。

食材をもらうのと食費を減らすため、やたら実家に帰った。

う〜ん、なんとも情けない節約術！

果たしてこれが本当に成功するフリーランスの秘訣か？！

「節約なんてすると、かえってリバウンドで出費することになるよ」と母。

あなたとは違ふんです（死語）。こちつから経営者なんだよ！

でも、続けているうちにだんだん出費がイライラするようになった。

そして……そのイライラはついにケンカにまで発展した。

その日は実家で留守番を頼まれていたのだが、仕事の予定があり帰れなかった。

だから、妹に代わってもらつてくれをお願いしたのだが……。

「交通費とかあわせて1000円で手を打ってやる」と妹。

な、なんだと？！

あんた、1000円ってのがどれだけ重いお金なのか分かって言ってるのか？！

1日の食費だよ？！ そこわかってんのか？

どう考えても往復500円くらいしか交通費がかかってないだろうが。

「今、苦しい時期だからカンベンしてくれよ、それくらい親切心でやってくれよ」と猛烈に逆ギレ。

「好きでフリーになったんでしょ！ こつちには関係ないことでしょ？」

モキーーーー！！ 悔しいったらありやしない。

家計簿に1000円、とつけて涙が出てきた。

そして1000円ごときで10年ぶりくらいに妹と喧嘩する自分が情けなくて、涙が出た。

あ〜！ もつ、やってられん！

ドッカーン！

それからは……そつ、予想通り。

リバウンドで節約以上の大惨事、ならぬ大散財。

「ほらね、節約なんて、ロクなことないでしょ」と母。クウウ!! 悔しい！

一つわかったこと……そつ、私には節約が向いていないつつつことだ。

仕事ナシ、出会いナシ。これでいいのだ？

会社時代のランチタイムの話題といえは、やっぱり多くはガールズトーク。

が、しかしだ。最近恋愛のアレコレが全くない身としては居心地悪いことこの上ないっただら。

「そつそつ、あたしも昔、こんなことありましたっけ」

と昔話で応戦。痛かったわ。

毎日それが続くと、なんとも情けない。恋愛してない、カレシいないって人に認められていないことなのか。私は、人生で最も大切な何かが抜けているのか!?

でも、できないものはできないんだYO!

20代の頃は、まあ、それなりにいろいろあった、と思う。

それがまた、30歳を過ぎたあたりからパツパツなくなつた。

「あれ? この状況は何か始まるのでは?」というフラグはあっても、ストーリーが展開しない。

あれ? 恋愛ってどうやってするもんだっけか、とか思いながらのガールズトーク。

クーツ! コタえるぜ。

そのためには……稼がないのか。

家計簿はあきらめて、とにかく営業をすることにした。それも今さらなんだが。





「やっつくる、下り坂の予感」

半年ほど前から、胸に小さなシコリがあった。

その時は「**がんやがたつたさぶひびひー**」と怖くなってクリニックに検査に行ったのだが、マンモグラフィとか検査をして「**良性**」という結果が出ていた。でも、心なしか大きくなっているような気がする。

イヤイヤ、気のせい気のせい。

5000円の診察費だってもったいないし、時間があつたら仕事！ 仕事だ。

それからまた1ヶ月、2ヶ月経ち……。

しかし、会社を辞めたら、ガールズトークがパツタリなくなった。

ひとりランチは最初さびしかったけど、慣れてきたら気分がメチャ軽い!!

毎日楽しかったら恋愛なんてなくてもいいじゃないか!

みんな、メディアに踊らされてるんだわ!

ゴールドデンウィークが何? クリスマスが何だったの。

社会全体の集団催眠みたいなものから解けたみたいで爽快だった。

会話をするのは、仕事の話を淡々とするビジネスパートナーのデザイナーと、ランチをするお

店の店員さん、スーパーのレジさんくらい。

「最近どう?」「ヤバイよ」なんていつヤツがない!!

イヤッホウ!

……でもよう、この生活、いつまで続くんだ?

今はこの誰にもくずされない気ままな生活を謳歌したい! できれば就職とかすることなく、フリーをダラダラ続けていきたい。

でも、40歳くらいまでこのままではちょっとさすがにどうなんだろう??

ちよつとイタイ大人コドモになるのが目に見えている。

服だけは若者で、シワがくつきり……とか。

会社勤めの人と結婚したら、仕事の不安も「このままでいいのかな?」とかいう漠然とした不安もなさそう。

なるほど、不況になるとオンナは婚活に走るワケだ。

明らかに大きいだろ!?

そのシコリ。外側からもデコツと存在がわかるくらいだ！

まあ、ガンでないことは確かだとしても、ちよつとこんなデカイものが胸にあるのは気持ち悪い。もつ1回見てもらおうと、また同じクリニックに行ってみた。

本当に軽いキモチだった。

したらば……

「**なんで……なんでもっと早く来なかつたんですか!!**」と看護師さん。

ええ……!! 8ヶ月前に来たつづの！

いや、こないだ「良性」つつたよ!? アンタら。

「ちよつとでも異変があつたら来いって言つたよね」と先生。

ちよつと待て！ わかつてくれとは言わないが、そんなに俺が悪いのか？（チエッカーズ？）

確かに異変はあつたよ。でもさ、「良性」って一度言われたら油断するつてもんよ。

前回診察に来たときは、明らかに先生や看護師の顔が違った。

8ヶ月前は「あんた、気にしすぎだよ」くらいのイキオイだったつのに!!

「ナイね！ これは乳ガンじゃないよ。カタチも違つし、年齢的にも多分違つでしよ」

つてめっちゃ軽いノリだったのに。

「**……あ、あの……これってもしかしてガンとかそんなのですか?**」

まさかと思つて聞いてみた。心配しすぎを笑つてほしかった。

「今段階では断言できないけど、その心配がかなりありますね」

ええ……!! 否定してほしかったのに！

「あの、先生。あたしの命はどうなつちやうんですか？」

「**ああ？ それは大丈夫、あんま心配しなくていい**」

へ!?

「ただね、胸のカタチは悪くなつちやうよ。だから早く来いって言つたのに」

ええ……!! 心配サインはやめからー!

え、乳ガンつて命の心配はないの？

胸のカタチ？

乳ガンつて病気のことは話題になつてるワリにいまいち知らなかつたけど、いったいどんな病気なんだ？

「なんだかよくわかんないけど、胸のカタチが悪くなるのかもしれない」

それくらいのカルーい混乱を抱いて1週間。

第3章

ニューガン、何それ？



と、電話口でありえないカルサで、告知されたのだった。

「ああ、オタク、やっぱガンだったよ、ガンよ」